

## 強制連行 生々しく

東京で  
おぢさん  
シンボ 元慰安婦2人が証言

日本、韓国、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の女性が集まり、平和問題を考える「アジアの平和と女性の役割」東京シンポジウムが二十四日、東京都内で開かれ、韓国、北朝鮮の元従軍慰安婦二人が、旧日本軍が関与した朝鮮人の慰安婦強制連行の体験を生々しく証言した。

同シンポジウムは、三木元首相夫人の三木睦子さん、土井たか子・元社会党委員長らの呼びかけで、九一年以来開かれており、今回が四回目。全国から約六百人の女性と、南北朝鮮の代表団二十三人が参加した。

韓国全羅南道出身の金福姫さんの場合、三八年、三十九年、日本人が自宅に来て「軍服を作る工場での労働者仕に

来い」と無理やり連れ出し、数千人の朝鮮人女性と一緒に中国の広東に渡り、慰安施設に押し込まれた。その後は日本軍とともに、現在のマレーシア、インドネシアを連れ回された。金さんは「これでも、日本政府は知らない、やっていないというのか」と、言葉を詰まらせた。

シンガポールなどで慰安婦をさせられた北朝鮮の鄭文福さんは、机をたたいて、「妊娠した朝鮮人慰安婦はムシロにまいて海に投げ込まれて殺され、腹を刀で引き裂く場面も見た」と語った。終戦後は、連合軍に慰安婦問題が発覚するのを恐れた日本人が、看護婦に見せかけるため慰安婦に白い衛生服を着せた後、逃げたという。